

原始の遺跡と江戸近郊農村の史跡散歩

交通及び案内図

米津寺

西武池袋線東久留米駅から武蔵小金井駅行（前沢宿経由）バス「中央公民館入口」下車3分

柳窪

西武池袋線東久留米駅から武蔵小金井駅行（錦城高校経由）バス「柳窪一丁目」下車5分



東京都指定史跡・米津家大名墓所

原始の里

武蔵野台地のほぼ中央部に位置する東久留米市は、市内でも有数の湧き水地帯であり、市名の由来ともなった黒目川（久留米川）や落合川などの河川が市を横断するように流れています。その河岸の台地上からは原始・古代の遺跡が100ヶ所以上も確認され、旧石器時代と縄文時代の“遺跡のまち”といわれています。



イノシシの装飾のある縄文時代中期の土器（多聞寺前遺跡出土）

都指定史跡の新山遺跡と下里本邑遺跡、市指定史跡の小山台遺跡の遺跡公園、六仙遺跡（都立六仙公園整備予定地内）や自由学園南遺跡（自由学園内）などの縄文時代中期拠点集落も良好な状態で保存され、川に沿った遺跡めぐりも楽しめます。

東京都指定史跡・米津家大名墓所

東久留米市は、落合・神山・門前・小山・南沢・前沢・下里・柳窪などの村が合併し、久留米村として誕生したのがその始まりですが、現在も江戸の近郊村落の面影を残した景観や文化財が数多く残されています。

旧前沢村にあるのが大名墓所として最初の都指定史跡となった「久喜藩主・長瀬藩主米津家墓所」です。米津家は、徳川十六神将図にも描かれている旗本で、米津田政（江戸町奉行）は5千石の知行地を与えられ、2代田盛は1万石を加増されて大名となり、3代政武の時に久喜藩主（埼玉県）、7代通政の時に長瀬藩主（山形県）になりました。田盛が菩提寺として創建したのが米津寺（幸町4-2-40）で、墓域には田盛、4代政矩、6代政崇、8代政懿の笠付六角塔身型という珍しい形状をした4基の墓標が並び、その前には家臣から奉獻された石灯籠が配置されています。他に田政の正室松樹院の大型の宝篋印塔や親族の供養塔などがあり、大名の格式を見ることが出来る都内の多摩地域では唯一の墓所です。米津寺には市指定文化財

の「開山大愚和尚肖像画（頂相）」（1653年）もあり、東京文化財ウィークで公開されています。

米津寺の門前には前沢宿の街道があり、寛永18年（1641）から延宝4年（1676）まで設置された尾張徳川家の鷹狩宿所である「前沢御殿」（八幡町二丁目11付近）のあった旧延命寺跡まで続き、付近には御殿と同時期に造られた明暦元年（1655）の石灯籠のある八幡神社もあります。

江戸近郊農村の景観

江戸の近郊農村の姿を今にとどめているのが、黒目川の源流部に開発された旧柳窪村集落（柳窪四・五丁目付近）です。江戸から明治期にかけての古民家や屋敷林、文化財、自然が広域に保全され、東京都選定雑木林の道「黒目川・柳窪コース（屋敷林の道）」、東京の名湧水57選、東京都緑地環境保全地域



柳窪の屋敷林

（1.36ha）に選定されているほか、天神社、長福寺、「柳窪梅林の碑」や石仏・墓碑などの市指定文化財も多くあります。古民家の敷地内は普段は見学できませんが、屋敷林や文化財など江戸近郊農村の景観を広い範囲で見ることができます。地域の協力を得て2005年から行っている「旧柳窪村集落特別見学会」は東京文化財ウィークの東京都知事賞を受賞しています。

問い合わせ先

東久留米市郷土資料室（教育委員会生涯学習課文化財係）
電話042-472-0051

東京文化財ウィーク2007の公開情報

- ・原始の里（新山・下里本邑遺跡）
随時（文化財ウィーク期間中は解説カードを配布します。）
- ・米津家大名墓所
11月4日（日）11:00と14:00に現地解説と市指定文化財の公開（文化財ウィーク期間中は解説カードを配布します。）
- ・「江戸近郊農村の景観」（旧柳窪村集落）
11月25日（日）予定10時または14時
「旧柳窪村集落特別見学会」（要事前申込み・定員あり）を行います。